

一声社：TEL03-3812-0281/FAX03-3812-0537

閑話休題一本の思い出

本に入る前に、演劇の思い出を。

◆一番最初の役は、七人の小人

市立幼稚園の年長さんの時、『白雪姫』に出演(全員)。七人の小人の一番先頭を歩き、記念すべきセリフを言った。

「あっ！お鍋の蓋が開いているよ！」

何の場面だったのか、今となっては皆目見当がつかない。

◆幻燈

これも幼稚園の時。スライド(これさえ若い方は知らないだろうが)を、「幻燈」と呼んでいたのだが、昼間にお部屋が真っ暗になるという非日常のゾクゾク感に興奮。色鮮やかな絵がスクリーンに映し出され、大好きで待ち遠しい出し物だった。

◆えらい人の話

つまり伝記。読んだ本の中で、一番最初の記憶がこれ。お金はなかったが、本は色々買ってくれ、確か1年生の担任に勧められて母が購入。薄い伝記のセット。

「聖徳太子」をいまだに覚えている。みんなが桜が好きだというのに、太子は「松が良い」と言う。「松は冬でも青々をしているから」。後に、古代は桜よりも梅が人気だったと知る。哀しい思い出。

◆フランダースの犬

同じく1年生の頃、学校近くの本屋さんで購入。悲しくて、でも大好きなお話だった。まだ読んでいた途中、クラスで一番人気の女子のお誕生会に招待され、持っていくプレゼントが無かった。母親が「この本をプレゼントしたら？」。まだ全部読んでいないし、大好きな本だったのだが、一番

人気の女子も大いに気になる。手ぶらで行くわけにもいかず、1年生の幼い心は千々に乱れた。

結局、この本を持っていくことに。その子の犬の散歩と一緒にいき、綱を持たせてもらった途端、犬が猛然とダッシュ。さながら西部劇のように、綱を持ったまま引きずられた。田んぼのあぜ道だったので大して怪我はなかったが、張り切って着て行った一張羅が台無しに。泣きそうになったが、その子の手前、見栄も張りたい。

「全然 大丈夫やでえ～」

「膝から血い出てるでえ」

(膝よりも、服が心配やねん)

フランダースちゃんわ。不乱ダンスや。犬も相手をよく見ていると知った。

◆スポーツマン金太郎

寺田ヒロオさんの漫画。親は、漫画は絶対に買わない。そんなヨネやんが、一番最初に読んだマンガの単行本がこれ。

小学3年生の時。東京から引っ越してきた頭の良い0君の家にあったのを熱心に読んでいたら、貸してくれたのだ。

東京の人と話をするのは初めてだったので、「ぼく、わかんないよ」「いいんじゃない？」とか言われると、お尻の穴がむず痒くなったものだ。ちなみに、0君のお母さんに生まれて初めて食べさせてもらったのが「磯辺焼き」。焼いた餅を海苔でくるんで食べるのが珍しく、大いに満足。

紙とえんぴつ〜のシリーズ全3巻と、

紙とえんぴつ小道具セット

一声社の絵葉書をシュリンクして出荷します。ご希望の方は、ぜひご連絡ください。春フェアでなく、今すぐでも大丈夫！